

ROTARY CLUB OF

**KANAZAWA-NORTH**



**金沢北ロータリークラブ**

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：卯辰山・ホワイトハウス

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 63-1151

会長：岡田 林太郎 幹事：釣見 栄一

情報委員長：清水 忠

1978・5月4日

第114号



**“婦人と育児について”**

福島 好江 先生

私は結婚して間もなく夢と希望を持って主人と満洲へ渡りました。しかし幸せは長くは続かず戦争が勃発し、主人は現地召集となり兵役し、命を落としてしまいました。戦火の下、幼い長男を抱え無事帰還できたことは、実に幸運でありました。

ソ連軍、中共軍、国府軍の目をかすめ、満洲の荒野を彷徨うたことは口では言い表し難い苦勞ではありましたが、自分にとって心の支えは“日本がある、良い日本がある”の一念であったと云っても過言ではありません。生きていて良かったと若葉の季節、特に感慨を新たにするものであります。

戦後30年が過ぎました。心の支えであった“良い日本”が私の目からこれでいいのか？といつの日よりか頭より離れなくなり、何らかの形で自分の思いを、又、力を発揮したいと思うようになりました。——私はそれを将来の日本を背負うべき子供の教育、躰けに焦点を合わせました。現在、粟崎・志賀町の二ヶ所で乳児園の園長として毎日子供に接しておりますが、手本を示すべくその母親達に対しても1人1人に気を配っております。日常の子供の姿を見てその母親の影像が映ります。視野の狭い、利己主義の親であってはわが子の伸びる芽が伸びません。

婦人週間に因み敢えて、育児の母、又職場における職業婦人に対し、中途半端な面がないか反省をも促したく意見を申し述べましたが、一家の主人として男性は育児は母親まかせということなく、一致協力せねばならぬことは当然であります。

—金沢北RC例会講話より— (文責 桜井健太郎)

## 私の職業奉仕

沢田 哲夫

弁護士という職業は、個人の営利事業である半面において、裁判所の訴訟手続上、不可欠の公的機関でもある。従って、いやしくも、弁護士たる者は、好むと好まざるとに拘らず、営利を度外視し、貴重な時間をさき、公共のために奉仕しなければならない場合がある。

例えば刑事被告事件において、国選弁護人として行動する場合などが、それに該当する。もちろん、裁判所は若干の報酬を支給してくれるが、その額を申し上げることは遠慮したい。

つぎに、弁護士会が主催し、又は他の団体などと協力して、行っている無料法律相談がある。弁護士会に所属している限り、順番で担当が廻ってくる。これも中々忙しく、そして骨の折れる仕事である。この場合にも手当は支給されるが、これも申し上げるのをはばかる少額であって、奉仕の精神がなかったら、到底お引受けできる仕事でない。

その外にも、私も個人としては、裁判所の調停委員や労働基準局の委員などを仰付けられ、微力ながら一生けんめい奉仕をさせていただいているつもりである。

以上のようなことを申し上げたが、さて、此処まで来て、胸に手を当ててよくよく考えてみると、いま、申し上げたような仕事は、われわれ、社会の一員として存在することを許された者にとって、誰しもが果さねばならぬ当然の義務であり、えらそうな顔をして、職業奉仕だの何だのと言うのは、大きな間違いであろう。本当の職業奉仕とな、そんなものではない。ロータリークラブに入ったおかげで、私もこういうことを考えるようになったのであるが、いやしくも「奉仕」というからには、自分の仕事の中に、人に対するあたたかい思いやりの心持がこめられていなければならず、誰かがうまい言葉で言われたように、「善意の伝達」がなければならないのであろう。



弁護士である私が、職業を通じて社会公共に奉仕しようとするならば、まず、どうすることが、担当する事件の刑事被告人や、民事事件の依頼者にとって、本当に、有益であるかどうかを、本人と一しょになって、真剣に、誠心誠意、考えてやることから出発せねばならないと思う。

時には、だらしのない刑事被告人を叱りつけなければならないこともあるだろう。借財の山を前にして、途方に暮れている債務者の、尻をたたいて整理に努力をさせる必要がある場合もあるだろう。きついことを言って泣かせても、きついことを言う心の底に、如何なる圧力にも屈しない「善意」が秘められている限り、その弁護士の仕事は、被告人や依頼者から、感謝こそされても、決して恨まれることはない筈である。

「誰に対しても、あたたかい心」これが私のモットーであり、職業奉仕精神の根底をなすものである。

## ロータリー用語・修練委員会

### 12. Club Meeting (クラブ・ミーティング)

例会……クラブ例会は、ロータリー会員の親睦のグラウンドであると共に、それ以上に修練の道場としての意義が深い。

## 情報抄録

### 成長は誇りを生む

「あるロータリアンの会合で、『自分にとってロータリーとは何か』ということが話題になったとき、一人の会員が、その30年余の会員生活を顧みながら、こう言った。『長い間ロータリアンの会員をしていて最も満足に思えることの一つは、ロータリーが世界中こんなにも数多くの土地に伸びていっていることに対していつも誇りを感じることができたということである……私は、こうした土地の人々とますます親しく結びついていくのを感じるだけでなく、自分が、独得の単純な仕組みでわれわれを一つに結んでいる団体の一員であることをいつも誇りにしてきたのである。』」

「奉仕の冒険」より



### クラブ奉仕の役割

クラブ奉仕の役割に関する次の言葉は、オーストラリアのある地区ガバナーの演説の一部である。「アルバート・アインシュタインは次のように申しました：『人間社会における最もすぐれたものは、すべて、個人に与えられた、才能を伸ばす機会の如何にかかっている。』私のロータリー観では、われわれ一人びとりはその全プログラムを通じて、自己の才能を伸ばすこと、そして他の人びとを助けてこの才能を開発することに努めるよう、絶えず要請されているものと考えます。所属クラブ内において、われわれはまず第一にお互い同士が最も役立つ方法を見出すことによって、『全人類を結びつけるために奉仕する』基礎をかためることでもあります。その方法の発見にたえず努力しようではありませんか。」

### ロータリー・クラブと地域社会

ロータリー・クラブは、クラブ会員たちが提供する実業および専門職業上のサービスを必要としかつそれを利用する地元地域社会の人びとから孤立して存在することはできない。それ故われわれのクラブの主たる目的の一つは、会員

相互の交友を通じての恩典（親睦）を享受することにあるとはいうものの、同時にクラブは地元地域社会のためになるよう努めなければならない。ロータリーの方針は、他の団体と張合うことや努力の重複はさけ、あくまでも協力することである。それは、われわれが常に第一に念頭におくべきことであり、かつわれわれのすべての活動を通じて例証されなければならない。

### 国際奉仕

「諸国民間の理解増進をはかる活動において、ロータリーはその初期においてすでに効果的なことが実証済みの、あの……相互の利益尊重と友好的な関係……という同じ基準を守っている。商取引や社交を通じて、異国民同士お互いに理解するようになる。最初はいらだたく感じた奇妙な風習も、やがてそれに興味を持つようになり、そればかりかそれをまねることもしだしばみられるが、これは生活に潤いを与えるのに役立つものである。」 ポール・ハリスの言葉

### りっぱな仕事

1978年2月23日には、ロータリーの創立73周年を祝うことになる。その日が近づくにつれてポール・ハリスの次の言葉の正しさがいつにもましてつよく感じられる。「ロータリーにはただりっぱな仕事だけがあるのではない。りっぱな仕事というものは、その下にかくれているものの現われにすぎないのだ。世界で最も強い力の中には、目に見えないものがある。引力は見えないが、しかし、あの壮大なナイアガラ瀑布の存在も引力の法則があればこそだ……ロータリーでやっているりっぱな仕事にも隠れた力がある。それは善意という力であり、ロータリーの存在もこの善意の力のおかげなのである。」



